

環境衛生課からの お知らせ

環境衛生課（吉備庁舎）
清水行政局 建設環境室

〈ごみ分別すれば資源〉

御霊小学校の4年生 プラスチック収集場見学

6月7日（金）に御霊小学校4年生が有田川町営のプラスチック収集場を見学しました。このプラスチック収集場では、作業員の手によって汚れのひどいものや禁止物を取り除かれ、選別されたプラスチックはプラスチックベール（収集したプラスチックを圧縮し、結束材で梱包したもの）になります。

このプラスチックベールは、再商品化工場で処理され、建築資材やパレットに生まれ変わります。見学に来た児童たちは、作業員に積極的に質問し、分別への理解を深めていました。

家庭から出る 燃えるごみの収集量

令和6年（2024年）5月

約3133トン

前月から約9トンの減



プラスチックベールの品質検査

毎年1回、プラスチックベールの品質検査が行われます。町民の皆さまが分別し、プラスチック収集場の作業員による選別を経たプラスチックベールに異物や禁止物が混入されていないか、抜き打ちで検査されます。

その検査が6月12日（水）に北九州市で行われました。結果は、異物の量が全体で0.95%と少量で、例年どおりの優秀な成績でした。

しかし、残念なことに禁忌品のカミソリが1つ混入していました。刃物などの危険物や医療系廃棄物は禁忌品として1つでも混入していると指導の対象となります。禁忌品をプラスチックごみに入れることは危険で、リサイクルの妨げになります。

一時多量ごみの処理方法

町内のごみステーションは日常生活で出るごみの量を想定しています。1つの家庭から出るごみ袋は1〜3袋程度が一般的です。たくさんのごみを出し、他の人が入れられなくなる事態が発生しています。

引越しや掃除などで大量にごみが出る場合は、環境センターに直接

搬入するか、許可業者に処理を依頼してください。

ゼロカーボンシティ宣言の 達成に向けての取り組み

有田川町は、2050年までに地域全体の温室効果ガス排出をゼロにする「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。この取り組みは、気候変動の影響を軽減し、持続可能な未来を築くための重要な一歩です。平成25年度（2013年度）のCO2排出量は28万5千トンでしたが、令和2年度（2020年度）のCO2排出量は26万8千トンになり、6%の減となっています。

ごみの分別やリサイクル、電気製品の使用の最適化、再生可能エネルギーの導入などは二酸化炭素排出量を減らすことに貢献しています。それに加え、廃油の回収という新しい取り組みを始める予定です。具体的な方法については詳細が決まり次第お伝えします。プラスチックがごみではなく資源として活用されているように、一人一人の分別が持続可能な未来に向けて役割を果たしています。